

# 2025年3月期 第3四半期 決算短信補足資料

2025/2/7

株式会社ニッスイ



# 2025年3月期 第3四半期決算概況



## 2025年3月期第3四半期 サマリー

前年比では、売上高は食品が堅調で為替の効果もあり6%の増収。営業利益は海外食品が牽引した一方、水産事業と国内食品が苦戦し第3四半期では前年割れも、計画に対しては巡航速度。

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	対前年同期比		2025年3月期 計画 (5月発表)	進捗率 (%)
			増減	増減率(%)		
売上高	6,254 億円	6,633 億円	378 億円	6.1	8,750 億円	75.8
営業利益	263 億円	248 億円	▲15 億円	▲5.7	325 億円	76.4
経常利益	277 億円	279 億円	1 億円	0.5	350 億円	79.7
四半期 純利益	202 億円	195 億円	▲7 億円	▲3.5	240 億円	81.6

## 2025年3月期第3四半期 セグメント別概況

食品・チルドが好調なうえ為替効果もあり水産・食品いずれも増収だが、営業利益は水産が苦戦。

(単位:億円)	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	<b>6,254</b>	<b>6,633</b>	<b>378</b>	<b>6.1</b>
水産事業	2,561	2,706	145	5.7
食品事業	3,326	3,561	234	7.1
ファインケミカル事業	115	107	▲7	▲6.4
物流事業	117	126	9	7.8
その他	134	131	▲3	▲2.5
営業利益	<b>263</b>	<b>248</b>	<b>▲15</b>	<b>▲5.7</b>
水産事業	105	51	▲53	▲51.2
食品事業	212	237	24	11.6
ファインケミカル事業	▲0	1	2	—
物流事業	13	23	9	68.4
その他	4	7	2	54.2
全社経費	▲72	▲73	▲0	1.2
経常利益	<b>277</b>	<b>279</b>	<b>1</b>	<b>0.5</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	<b>202</b>	<b>195</b>	<b>▲7</b>	<b>▲3.5</b>

<売上高為替影響額>

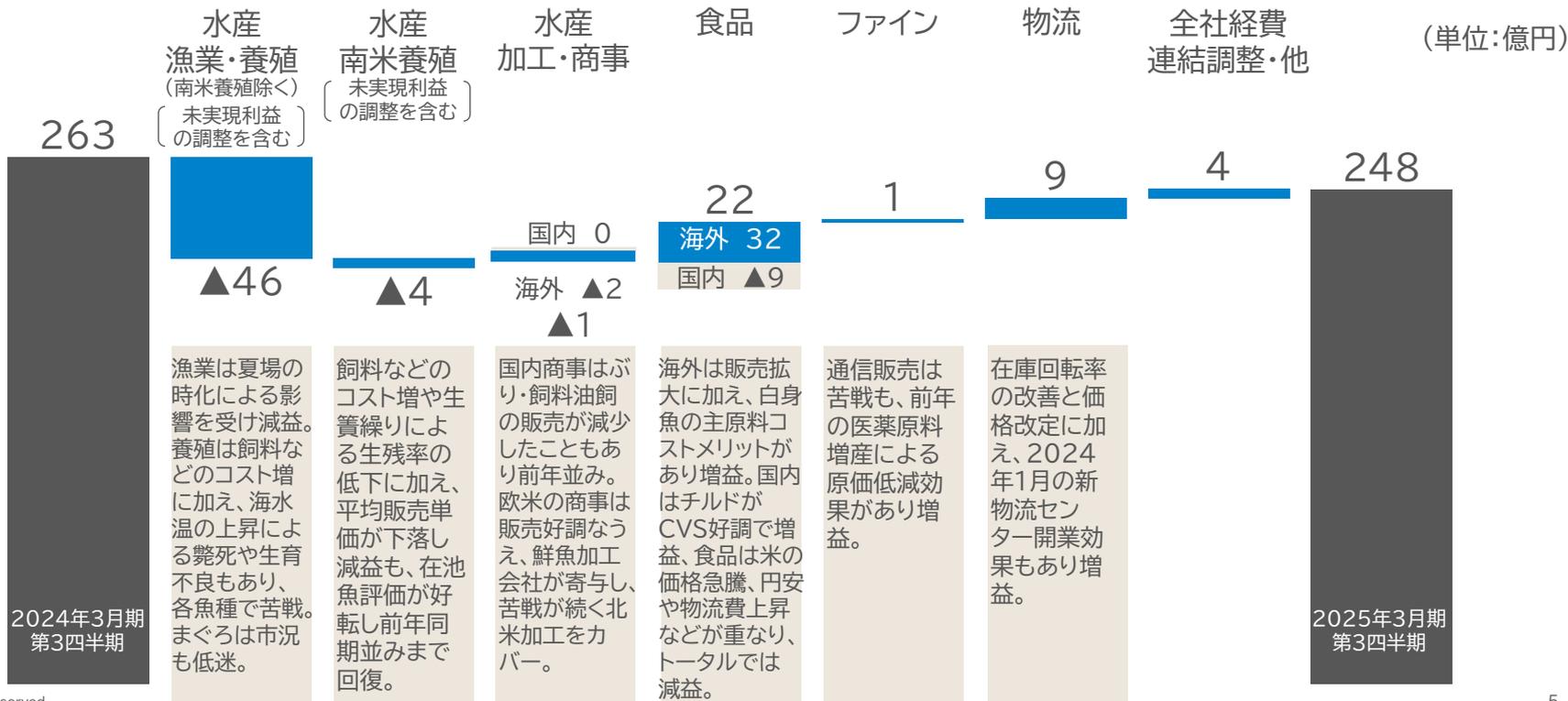
合計 +約254億円

水産+約125億円

食品+約128億円

## 2025年3月期第3四半期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

水産は天候や海水温の影響、飼料高騰を受け減益。食品は国内が米の急騰、円安などで苦戦の中、チルドや主原料コストメリットの大きい海外が好調で増益となったものの、全体では減益。



# 2025年3月期第3四半期 連結貸借対照表(前期末比)

運転資本の増加に加え、欧米への成長投資もあり総資産が増加。

(単位:億円)

( )内の数字は前期末比増減		<b>流動負債</b> 2,373    (+245)
<b>流動資産</b> 3,465    (+213)	現金及び預金            179    (+12)	支払手形及び買掛金        610    (+44)
受取手形及び売掛金        1,219    (+136)	棚卸資産(在庫)            1,897    (+56)	短期借入金                1,224    (+257)
<b>固定資産</b> 2,891    (+79)	有形固定資産            1,716    (+53)	未払費用                    341    (+5)
無形固定資産                163    (▲10)	投資その他の資産            1,011    (+36)	<b>固定負債</b> 1,277    (▲85)
<b>総資産</b> 6,357    (+293)	自己資本                    2,617    (+125)	長期借入金                1,006    (▲90)
		<b>純資産</b> 2,707    (+134)
		自己資本比率
		'24/3 41.1%    ⇒    '24/12 41.2%

## 2025年3月期第3四半期 連結キャッシュフロー(前年同期比)

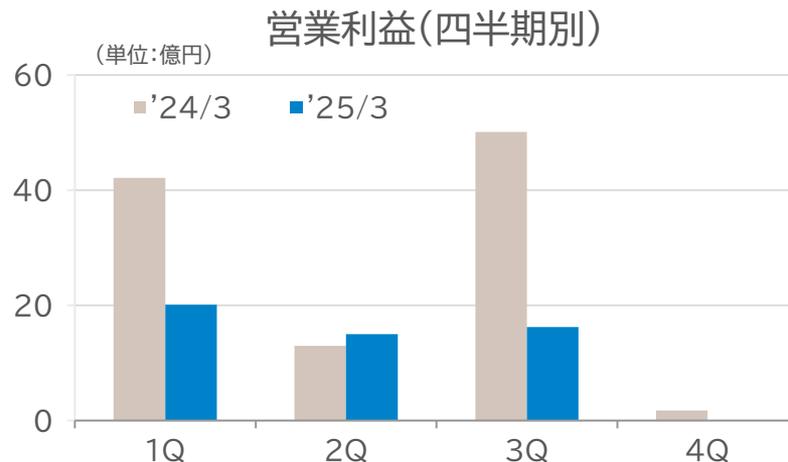
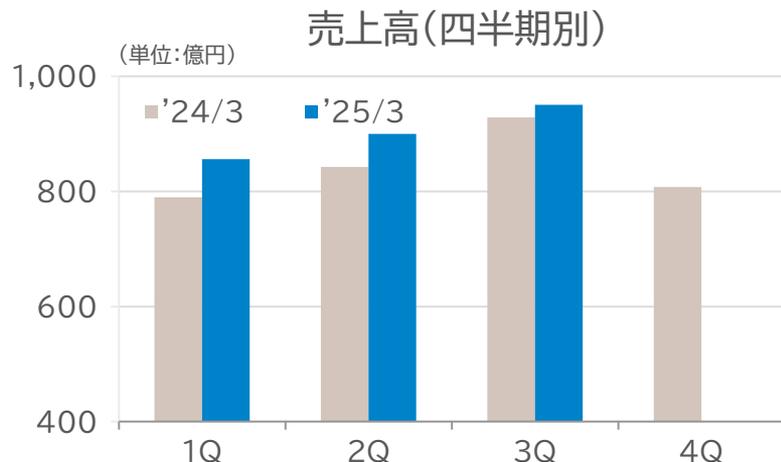
税金の支払が増加し、営業CFは若干減少。

(単位: 億円)	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	増減
・税金等調整前四半期純利益	292	295	2
・減価償却費(のれん償却含む)	166	188	21
・運転資本	▲ 184	▲ 121	63
・法人税等の支払額	▲ 41	▲ 120	▲ 78
・その他	▲ 16	▲ 64	▲ 47
<b>営業活動によるCF</b>	<b>215</b>	<b>177</b>	<b>▲ 38</b>
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 206	▲ 218	▲ 12
・その他	▲ 41	12	54
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 248</b>	<b>▲ 205</b>	<b>42</b>
・短期借入金の増減額	0	104	104
・長期借入金の増減額	72	40	▲ 31
・その他	▲ 59	▲ 94	▲ 34
<b>財務活動によるCF</b>	<b>13</b>	<b>51</b>	<b>38</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>136</b>	<b>221</b>	

## 2025年3月期第3四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

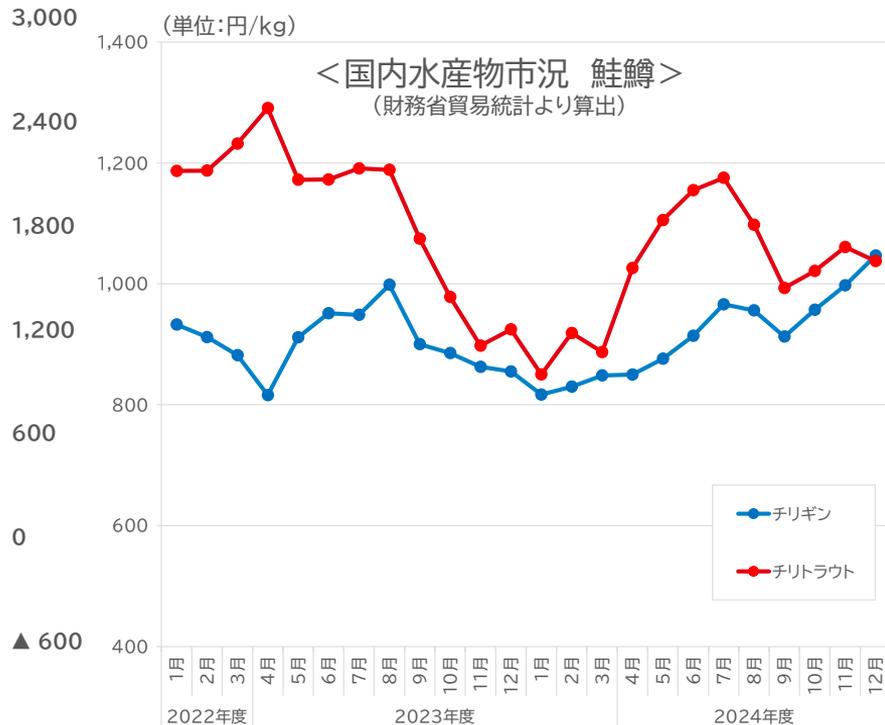
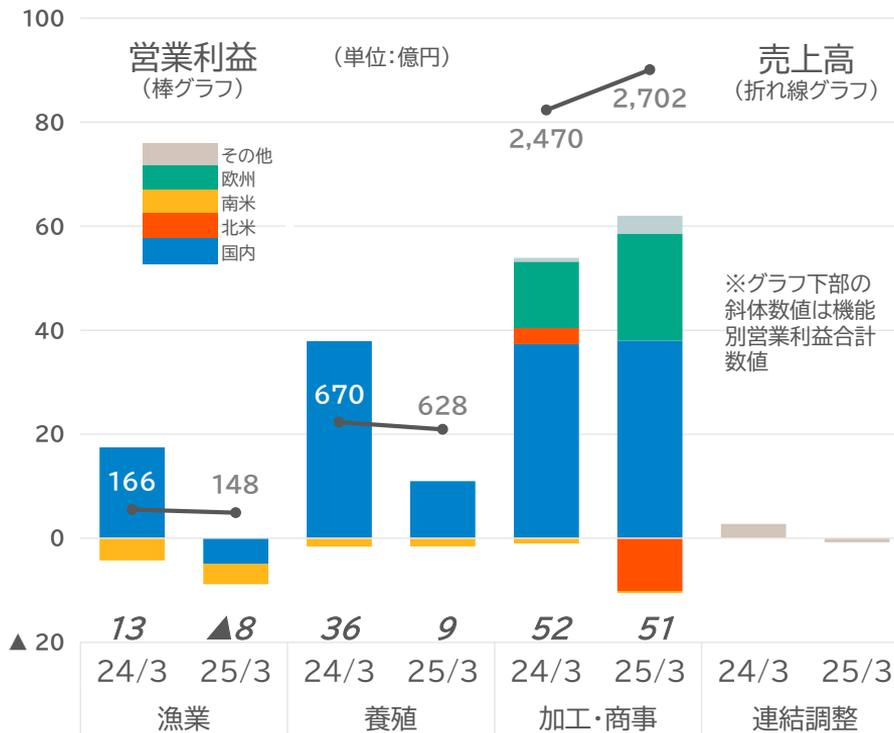
為替の影響に加え、国内外の商事が好調に推移し増収も、第3四半期はぶり・飼料油飼の販売減に加え、北米加工が引き続き苦戦し減益。

(単位:億円)	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,561	2,706	145	5.7
営業利益	105	51	▲53	▲51.2



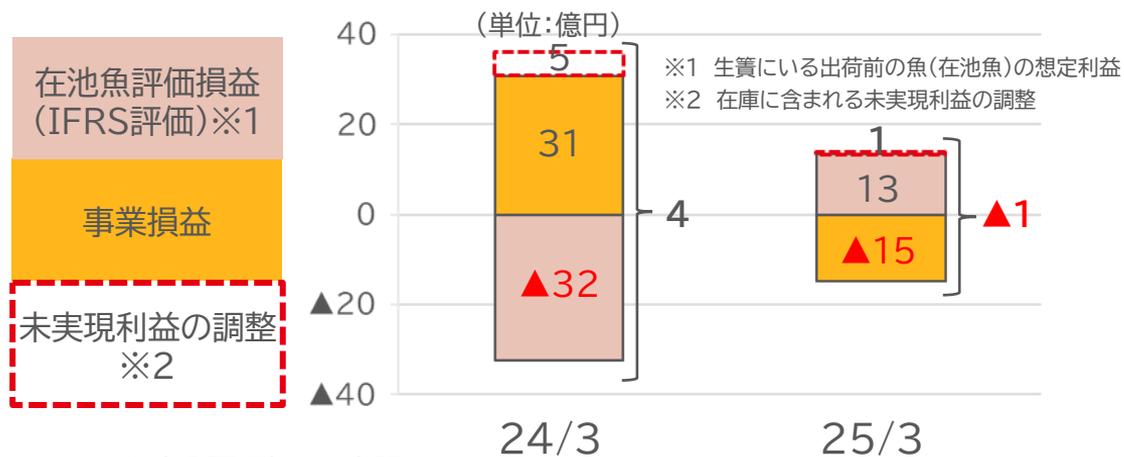
# 2025年3月期第3四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

漁業は時化による漁獲減、養殖は海水温上昇に加え飼料上昇、まぐろ市況価格低迷もあり苦戦。加工商事は欧州の鮮魚加工会社が寄与するも、北米加工のすりみ・フィレ価格低迷で前年並み。



# 2025年3月期第3四半期 南米鮭鱒養殖について

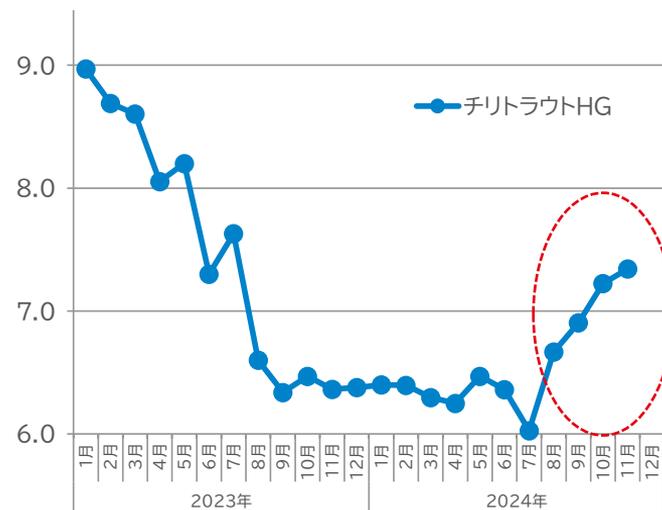
在池魚評価は販売単価が回復基調にあり、期首戻入額とネットでプラス(+13)に転じた。



<在池魚評価損益 内訳>

(単位:億円)	24/3 3Q	25/3 3Q
期首戻入額	▲7	22
期末評価損益	▲25	▲8
在池魚評価損益	▲32	13

<チリ産トラウトHG相場推移>  
(単位:USD/kg)



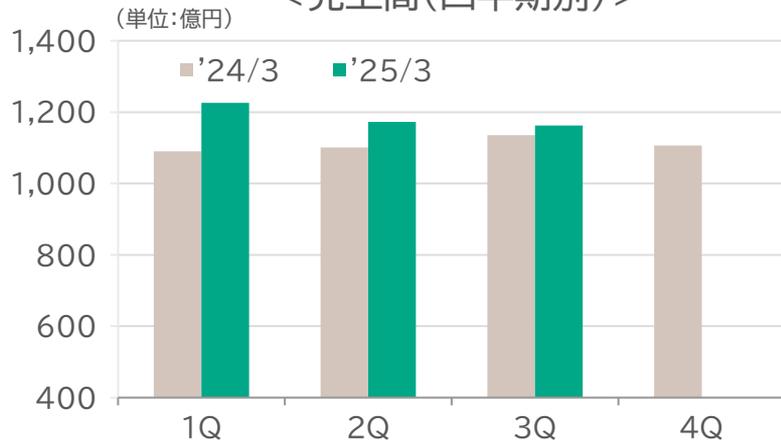
(出典:InfoTrade) (HG:頭と内臓を除去した状態の魚)

## 2025年3月期第3四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

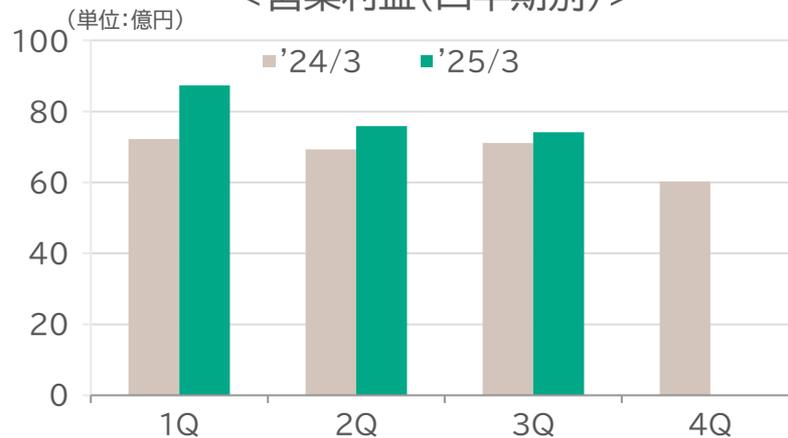
為替影響に加え、国内は販売好調で増収。

(単位:億円)	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,326	3,561	234	7.1
営業利益	212	237	24	11.6

<売上高(四半期別)>

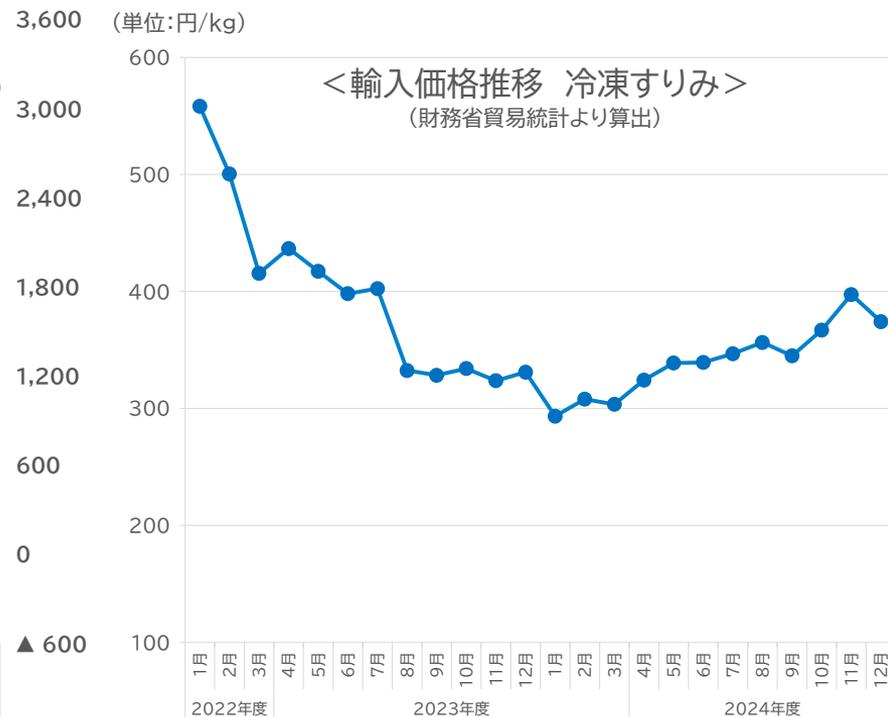
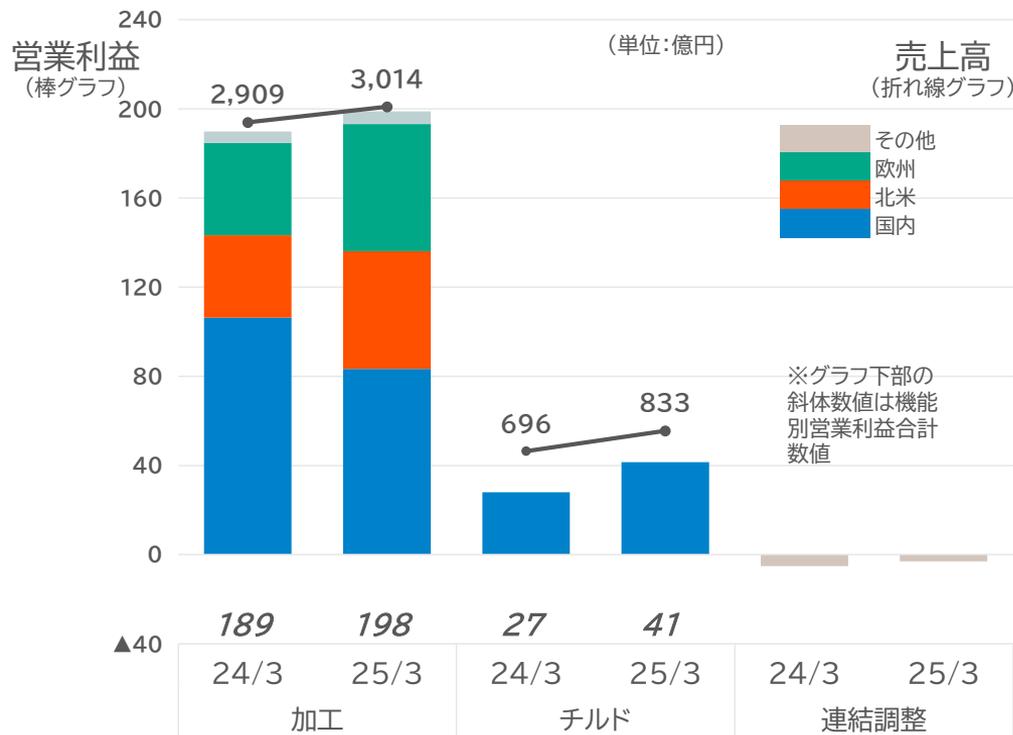


<営業利益(四半期別)>



# 2025年3月期第3四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

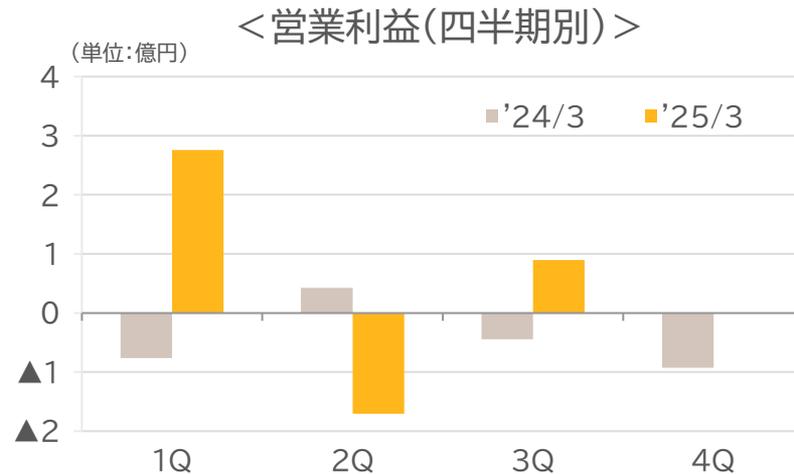
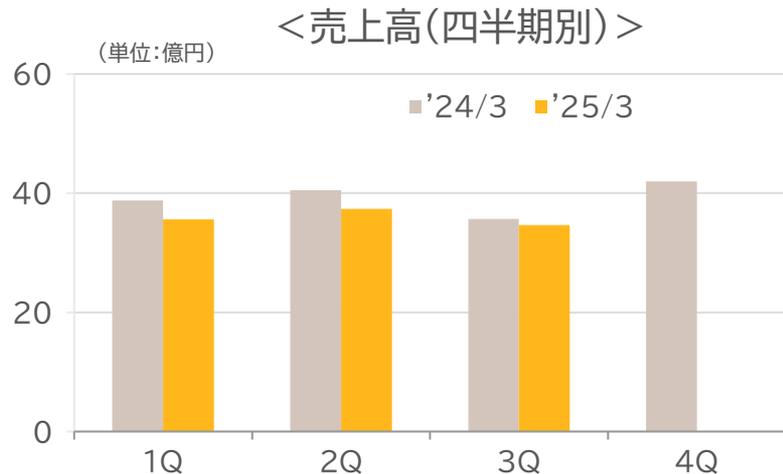
海外は販売拡大に加え、白身魚原価低減の効果が継続し増益。国内はすりみのメリットあるも予期せぬ米の高騰、円安、物流費の影響を受け減益。チルドはCVSの施策が好調で増益。



## 2025年3月期第3四半期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前年同期比)

通信販売が苦戦し減収も、前年の医薬原料増産による原価低減効果があり増益。

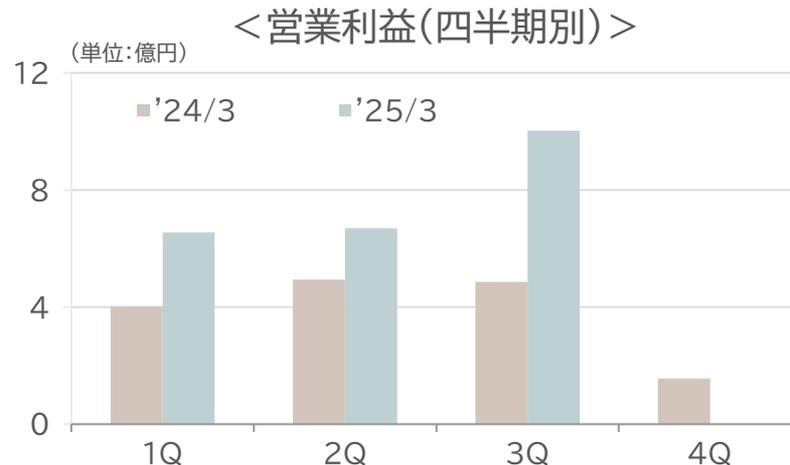
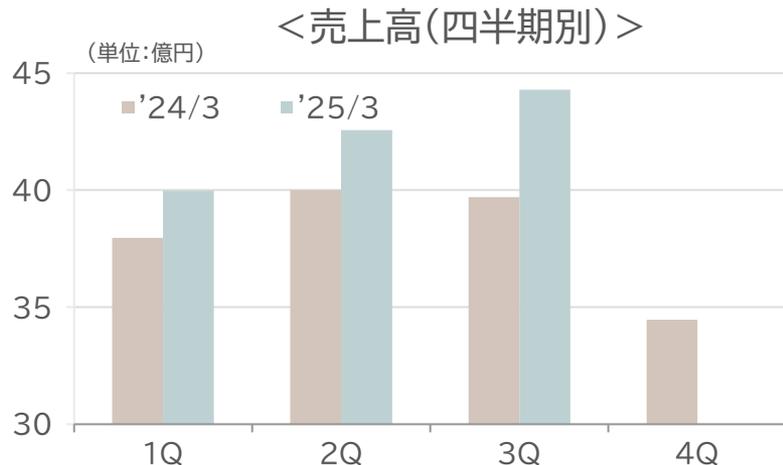
(単位:億円)	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	115	107	▲7	▲6.4
営業利益	▲0	1	2	—



## 2025年3月期第3四半期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

在庫回転率の改善と価格改定に加え、2024年1月の新物流センター開業効果もあり  
増収・増益。

(単位:億円)	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	117	126	9	7.8
営業利益	13	23	9	68.4



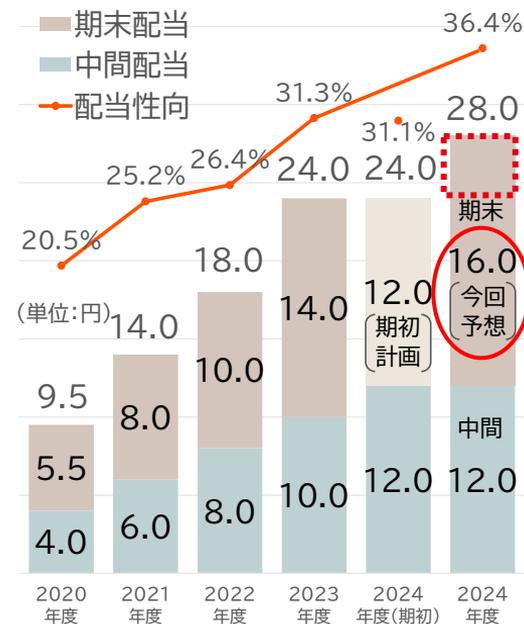
## 今後の見通し・取り組み



## 2025年3月期 通期見通し

- ・2022年に公表した中計の目標値(過去最高)をクリアする確度が高まった。
- ・期末配当は期初計画12円に対して4円増配。年間では28円。

	2025年3月期 期初計画	2025年3月期 修正計画	対期初計画比 増減		2025年3月期 中期経営計画 (2022年発表)
			増減	増減率(%)	
売上高	8,750 億円	8,800 億円	50 億円	0.6	7,900 億円
営業利益	325 億円	325 億円	-	-	320 億円
経常利益	350 億円	350 億円	-	-	350 億円
当期 純利益	240 億円	240 億円	-	-	225 億円



水産は漁業・養殖に改善の兆しが見られるものの、年間を通じての挽回は厳しい。  
一方、食品は海外を中心に販売拡大しているうえ、原料安効果も残ることからセグメント別の計画を修正する。

(単位:億円)	2025年3月期 期初計画	2025年3月期 修正計画	対期初計画比増減		2024年 3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	率(%)		(億円)	率(%)
売上高	<b>8,750</b>	<b>8,800</b>	<b>50</b>	<b>0.6</b>	<b>8,313</b>	<b>486</b>	<b>5.8</b>
水産事業	3,511	3,578	67	1.9	3,368	209	6.2
食品事業	4,705	4,700	▲5	▲0.1	4,432	267	6.0
ファインケミカル事業	165	163	▲2	▲1.2	156	6	3.8
物流事業	167	166	▲1	▲0.6	152	13	9.1
その他	202	193	▲9	▲4.5	202	▲9	▲4.8
営業利益	<b>325</b>	<b>325</b>	<b>0</b>	<b>0.0</b>	<b>296</b>	<b>28</b>	<b>9.6</b>
水産事業	144	93	▲51	▲35.6	106	▲13	▲13.1
食品事業	255	289	34	13.3	272	16	5.9
ファインケミカル事業	3	7	4	150.0	▲1	9	—
物流事業	20	28	8	40.0	15	12	82.2
その他	9	9	0	0.0	7	1	21.4
全社経費	▲107	▲102	5	▲4.7	▲104	2	▲2.6

<売上高為替影響額>

通期見通し

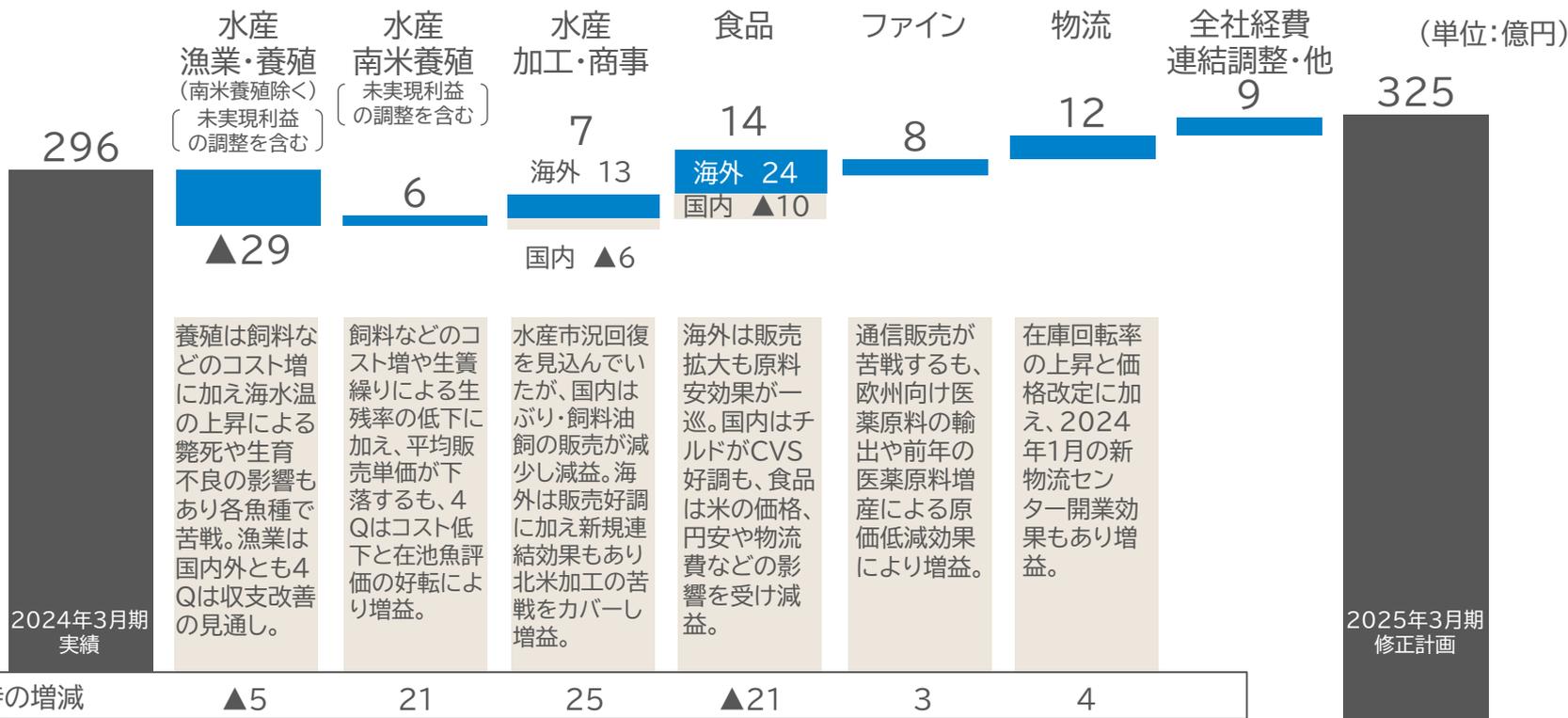
合計 +約305億円

水産+約152億円

食品+約152億円

# 2025年3月期 通期見通し 主な営業利益増減要因(前期比)

海外商事・食品、国内チルドの販売好調により、北米加工、国内漁業・養殖・食品をカバーし増益の見込み。



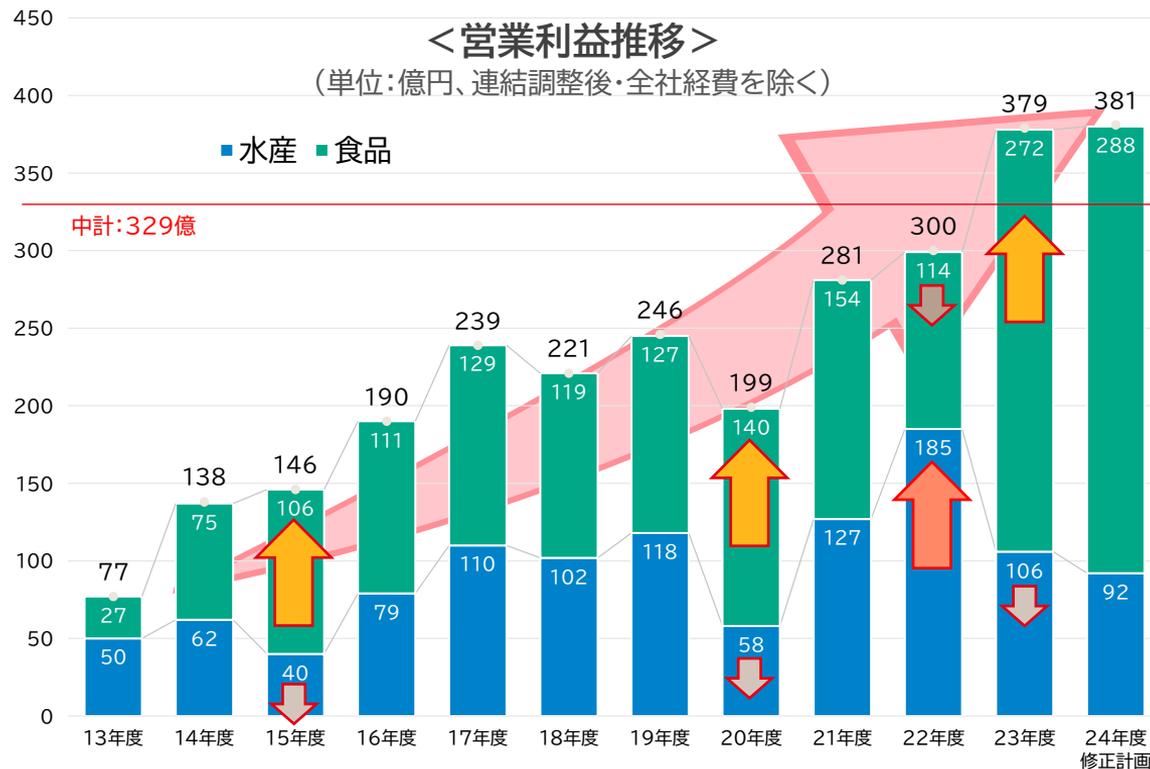
## 2025年3月期 通期見通し 期初計画と修正計画との差異(営業利益)

(単位:億円)

主なセグメント		期初計画	修正計画	増減額	増減理由
水産	漁業・ 養殖 <small>(未実現利益含む)</small>	71	31	▲39	南米漁業は数量減、養殖は飼料などのコスト増や海水温上昇に加えて、まぐろ・南米鮭鱒の販売単価低迷で苦戦し減益。
	加工・ 商事	78	60	▲17	海外商事は販売好調も、北米加工はすりみ・フィレ価格低迷とコスト増、国内商事は鮭鱒の販売は好調も、ぶり・飼料油飼の販売減で減益。
食品	海外	124	152	+27	エリア拡大などに加えて原料安の効果もあり増益。
	国内	133	140	+7	予期せぬ米の高騰、円安、物流費の影響を受け減益もチルドが伸長し増益。
ファイン		3	7	+4	通信販売が苦戦するも、欧州向け医薬原料の輸出開始や、前年の医薬原料増産による原価低減効果により増益。
物流		20	28	+8	在庫回転率の上昇と価格改定に加え、2024年1月の新物流センター開業効果もあり増益。

\*数値は機能別営業利益合計数値

水産事業と食品事業は互いに補完しつつ、着実に利益水準を切り上げている。



## 今後の取り組み：水産事業(海外)

資源アクセスの強化や加工度を高めることで高付加価値化を図り、グローバル市場での事業展開を推進、バリューチェーンを強化する。

### ▶ 資源アクセス強化

一 漁獲拡大をバリューチェーンの強化につなげる

ニュージーランドの漁業会社を買収し、漁船や漁獲枠を拡大。グループ内の加工・商事機能で付加価値をつけグローバルな需要に対応していく。



### ▶ 高付加価値化

一 加工度の向上

南米のサーモン養殖は、生食用途への生産シフトにより、高付加価値商品の割合を高める。



北米加工はフィレ生産比率を向上。



### ▶ マーケットの創造と拡大

一 日本産水産物の輸出拡大

ぶりや北海道産ほたてなど、日本産水産物の販売拡大。



一 新規市場の創造

EPA・DHA含有率が高い商品を導入、北米で新たな市場を創造。



EPA・DHA含有率が高い商品：オメガブルー

# 今後の取り組み：水産事業(日本)

## ▶ 資源アクセス強化

一 養殖エリア分散・拡大

環境変化に対応し、養殖エリアの分散によるリスクヘッジを進めると同時に、事業を拡大する。



一 漁場の拡大

短期養殖本まぐろの拡大により、リスクを軽減するとともに、収益性を向上。



## ▶ 高付加価値化

一 加工機能の拡充

黒瀬ぶり加工拠点を増強し、年間加工能力を約3割拡大。規模の拡大と収益性の向上を図る。



加工



一 特長のある加工品を開発しトップラインを上げる

MSC\*漁業認証の漁業によるかつおを使用した「MSC光洋丸 薫焼きかつおたたき」を発売。

\*Marine Stewardship Council: 海洋管理協議会

第七十八光洋丸(共和水産所属)



加工



MSC光洋丸 薫焼きかつおたたき

飼料価格変動や、高水温など外部環境の変化に対応し、安定的に収益を上げられる仕組みを構築する。

## ▶ 種苗生産能力の増強

- 一 養殖事業の2030年目標達成に向け、鮭鱒・ぶりの種苗生産能力の強化・拡大を進める



## ▶ 飼料配合の取組み

- 一 (南米) 増設したサイロで価格や育成状況に合わせて飼料配合をフレキシブルに調整する



## ▶ 環境変化への対応

- 一 漁場の適切な運用による、斃死リスクの回避
- 一 育種による成長促進・高温耐性化
- 一 沖合漁場での大型生簀や浮沈式生簀への転換と次世代給餌システム(海中給餌)の開発により、高水温への対応を強化するとともにCO<sub>2</sub>などの環境負荷を軽減する。
- 一 給餌や飼育管理の自動化により、労働災害の削減を進めるとともに、コストダウンを図る。



養殖コストに占める割合が高い飼料価格は低下。次年度以降の養殖コストの低減につながる。

< 国内水産物市況 魚油・魚粉 >  
(財務省貿易統計より算出)



# 今後の取り組み： 食品事業(海外)

成長市場への積極投資。トップライン伸長による利益拡大。

▶ 欧州はエリア拡大とチルド売場でのプレゼンス向上、北米はカテゴリーやチャネル拡大

ー 欧州

- ・販売エリアの拡大に加え、チルド水産フライ売り場と隣接するタパスも強化。



チルド白身魚フライとタパス



生産能力の拡張で  
需要に応え  
自動化で収益力を強化

欧州量販店のイメージ図



欧米ともキャパ増強  
2025年稼働予定

ー 北米

- ・EC・会員制店舗などチャネルを拡大。



家庭用冷凍  
白身魚フライ



工場新設による  
内製率向上と  
物流効率化



EC



会員制店舗向け  
大容量バリューパック商品



国内はチルドの機能を活かし、個食簡便などのニーズに応え差別化を図る。

### ▶ 簡便・即食など消費者ニーズに対応した差別化商品の展開

・一皿でごはんとおかずが楽しめるワンプレートや、フローズンチルド惣菜などチルド・冷凍食品のノウハウを融合した独自の商品を展開。



レンジ調理で簡単に喫食できる  
ワンプレートの新商品



### ▶ 戦略的な価格改定と単品別収益管理の徹底による収益性向上

・戦略的価格改定や不採算アイテムの削減を継続して実施することで、収益性を改善。  
・3-4月の価格改定により、家庭用・業務用商品で3%~30%の値上げを実施。

### ▶ チルド事業の強化：商品開発機能の強化と生産性の向上を進め、統合効果の最大化を図る

・商品開発組織の再編に加え、新製法の活用などによる商品開発力の強化でトップライン向上

・自動化による生産性の向上により、収益力強化



商品開発の様子

## 今後の取り組み： ファインケミカル事業

医薬原料は年度内に欧州向けの出荷を開始。機能性原料は、脱臭精製技術の強みを活かし、海外市場の開拓を進める。

### <医薬原料>

- 欧州医薬品庁および英国医薬品医療製品規制庁から原料の申請承認を得たことを受け、第4四半期に欧州向けに出荷スタート。

### <機能性原料>

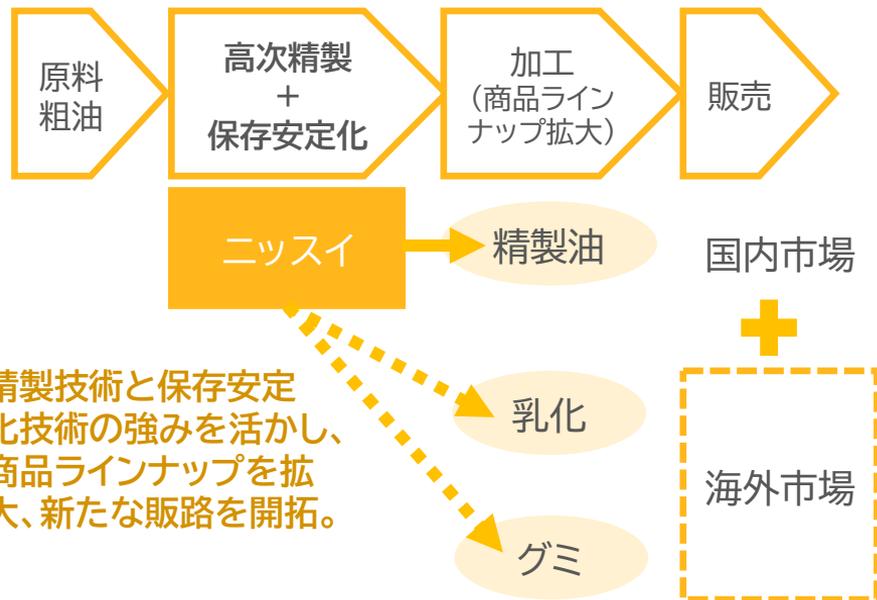
- 現行のサプリメント用のEPA/DHA精製油の販売に加え、高度な魚油精製技術と保存安定性付与技術(脱臭・乳化・酸化防止など)を駆使したグミやゼリーなどの商品を海外市場に展開する。



グミ商品のイメージ図



### 機能性原料のサプライチェーン強化



## サステナビリティの取り組みでコスト削減

ロングセラー「海からサラダフレーク」の包装をトレーレスに変更。プラスチックと段ボールの削減を進め、積載効率の向上・CO2削減とともにコスト削減を狙う。

「海からサラダフレーク 120g」の場合



【従来品】



プラスチック  
45%削減



【新商品】



環境に配慮して  
プラスチックトレーを  
使用していません。

### <プラスチック削減>

- プラスチック使用量従来品より45%(\*1)削減。  
⇒年間約110トン(\*2)削減見込み

### <物流費・CO2削減>

- 包装形態の変更によって、内容量はそのまま  
配送用段ボールサイズの縮小により、  
段ボール体積を約45%(\*3)削減。  
⇒輸配送車の積載効率の向上やCO2削減も期待

\*1 「海からサラダフレーク 120g」の従来品からのプラスチック削減率

\*2 フレークタイプの風味かまぼこ類(トレー入り)の2023年度実績に基づく推計値

\*3 「海からサラダフレーク 120g」の配送用段ボールの外寸で算出し比較した結果、従来品は38.0cm×19.6cm×9.8cmで7299.04立方cmのところ、新商品では25.1cm×18.6cm×8.5cmで3986.31立方cmとなった。

## サステナビリティの取り組み 地域との連携でビジネスを構築

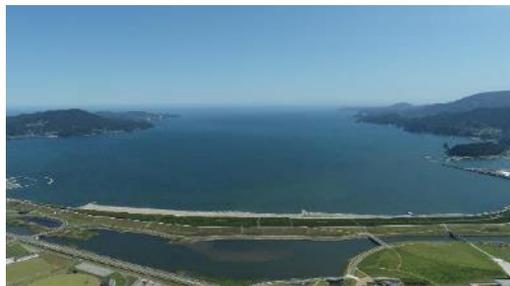
岩手県陸前高田市と、「持続可能な水産ビジネスの構築や企業価値の向上」を目指し、地域と連携した環境保全の活動に関する協定を締結。

- ▶ サーモン試験養殖実施中の同市との本協定の締結を通じ、地域の雇用創出、活性化に寄与するとともに、当社にとっては人財確保による高付加価値製品の拡充を進め、事業の成長を図る

「陸前高田市企業等による森づくり制度」における活動に関する協定を締結



協定締結式の集合写真  
陸前高田市の佐々木市長(左から4番目)と協定締結した各社代表者  
ニッスイ社長の浜田(左から3番目)



サーモン試験養殖実施中の  
陸前高田市の広田湾



生食用水産加工品の生産を行う  
陸前高田市市内の(株)武蔵野  
フーズ(連結子会社)



変化への対応力を上げ、  
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に  
お届けするリーディングカンパニー  
(Good Foods 2030)」  
達成に向けて取り組んでまいります。

## 見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



**まだ見ぬ、食の力を。**

株式会社ニッスイ  
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課  
03-6206-7037

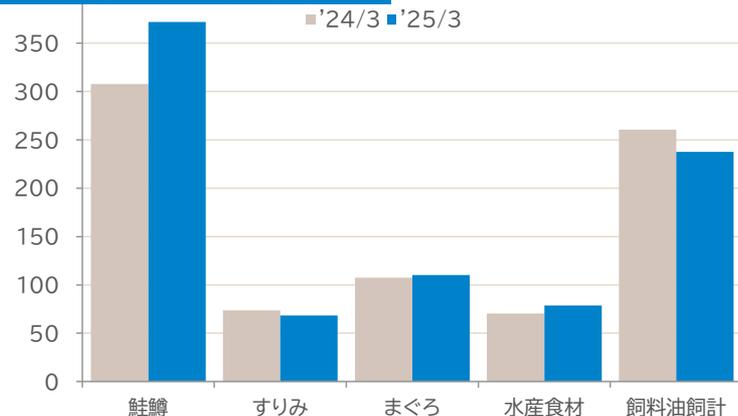
<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

## 參考資料

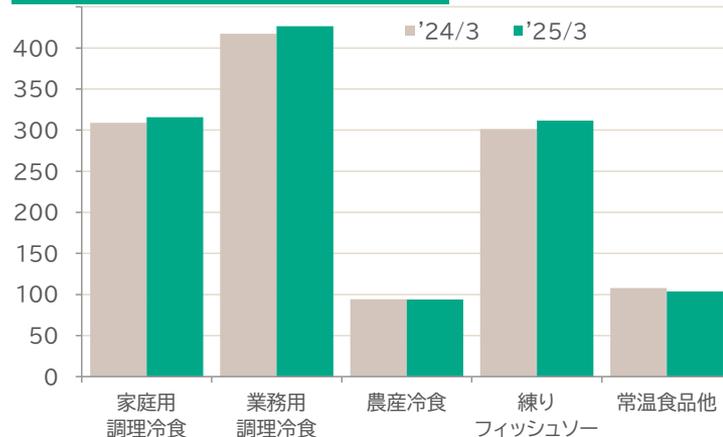


# 2025年3月期第3四半期 参考資料

## 水産個別 主要魚種別売上高 (単位:億円)



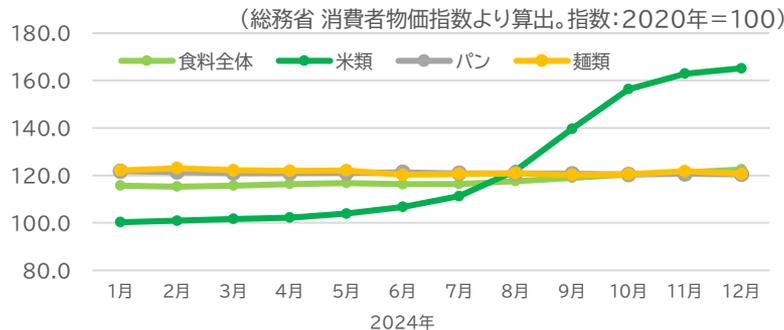
## 食品個別 カテゴリ別売上高 (単位:億円)



## 国内水産物市況 生鮮まぐろ (単位:円/kg)



## 食料価格の推移(米類・パン・麺類)



## 2025年3月期第3四半期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	増減	主な増減要因
売上高	<b>6,254</b>	<b>6,633</b>	<b>378</b>	
売上総利益	<b>982</b>	<b>1,052</b>	<b>70</b>	
販売費・一般管理費	718	804	85	
営業利益	<b>263</b>	<b>248</b>	<b>▲15</b>	
営業外収益	38	59	20	持分法による投資利益+23
営業外費用	24	28	4	
経常利益	<b>277</b>	<b>279</b>	<b>1</b>	
特別利益	30	23	▲7	受取保険金▲10
特別損失	16	7	▲8	事故関連損失▲10
税金等調整前四半期純利益	<b>292</b>	<b>295</b>	<b>2</b>	
法人税等	87	79	▲7	
法人税等調整額	▲3	5	9	
四半期純利益	<b>208</b>	<b>209</b>	<b>0</b>	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	6	13	7	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	<b>202</b>	<b>195</b>	<b>▲7</b>	

## 2025年3月期第3四半期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート (連結調整前)

主要在外会社の 為替換算レート	2024年3月期 第3四半期		2025年3月期 第3四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,144	1,593	1,089	1,654	▲54	60	▲78	139
EUR(百万ユーロ)	338	510	331	545	▲7	34	▲10	44
DKK(百万クローネ)	2,426	491	2,570	568	143	76	31	45
その他通貨	—	266	—	299	—	32	8	24
計		2,862		3,067		205	▲49	254

### 【参考:為替レート】

※右表の為替レートは  
第3四半期の平均

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	変動率
米ドル(USD)	145.58 円	146.66 円	0.7%
ユーロ(EUR)	157.73 円	161.59 円	2.4%
デンマーククローネ (DKK)	21.16 円	21.66 円	2.4%

## 2025年3月期第3四半期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,953 (44)	526 (21)	287 (▲2)	652 (96)	59 (13)	3,479 (172)	▲773 (▲27)	2,706 (145)
	1,909	505	289	556	46	3,307	▲746	2,561
食品事業	2,307 (164)	837 (40)		622 (35)	79 (2)	3,847 (241)	▲286 (▲6)	3,561 (235)
	2,143	797		587	77	3,606	▲280	3,326
ファイン 事業	128 (▲4)				— (0)	128 (▲5)	▲20 (▲2)	107 (▲8)
	132				0	133	▲18	115
物流事業	248 (28)					248 (28)	▲121 (▲18)	126 (9)
	220					220	▲103	117
その他 事業	153 (▲16)				1 (0)	155 (▲15)	▲23 (13)	131 (▲3)
	169				1	170	▲36	134
仮計	4,791 (215)	1,364 (62)	287 (▲2)	1,275 (131)	139 (14)	7,858 (420)		
	4,576	1,302	289	1,144	125	7,438		
連結調整	▲776 (▲11)	▲150 (▲10)	▲191 (▲18)	▲12 (2)	▲93 (▲4)		▲1,225 (▲41)	
	▲765	▲140	▲173	▲14	▲89		▲1,184	
連結計	4,015 (205)	1,213 (52)	96 (▲19)	1,262 (133)	45 (9)			6,633 (379)
	3,810	1,161	115	1,129	36			6,254

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去を含む。

# 2025年3月期第3四半期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

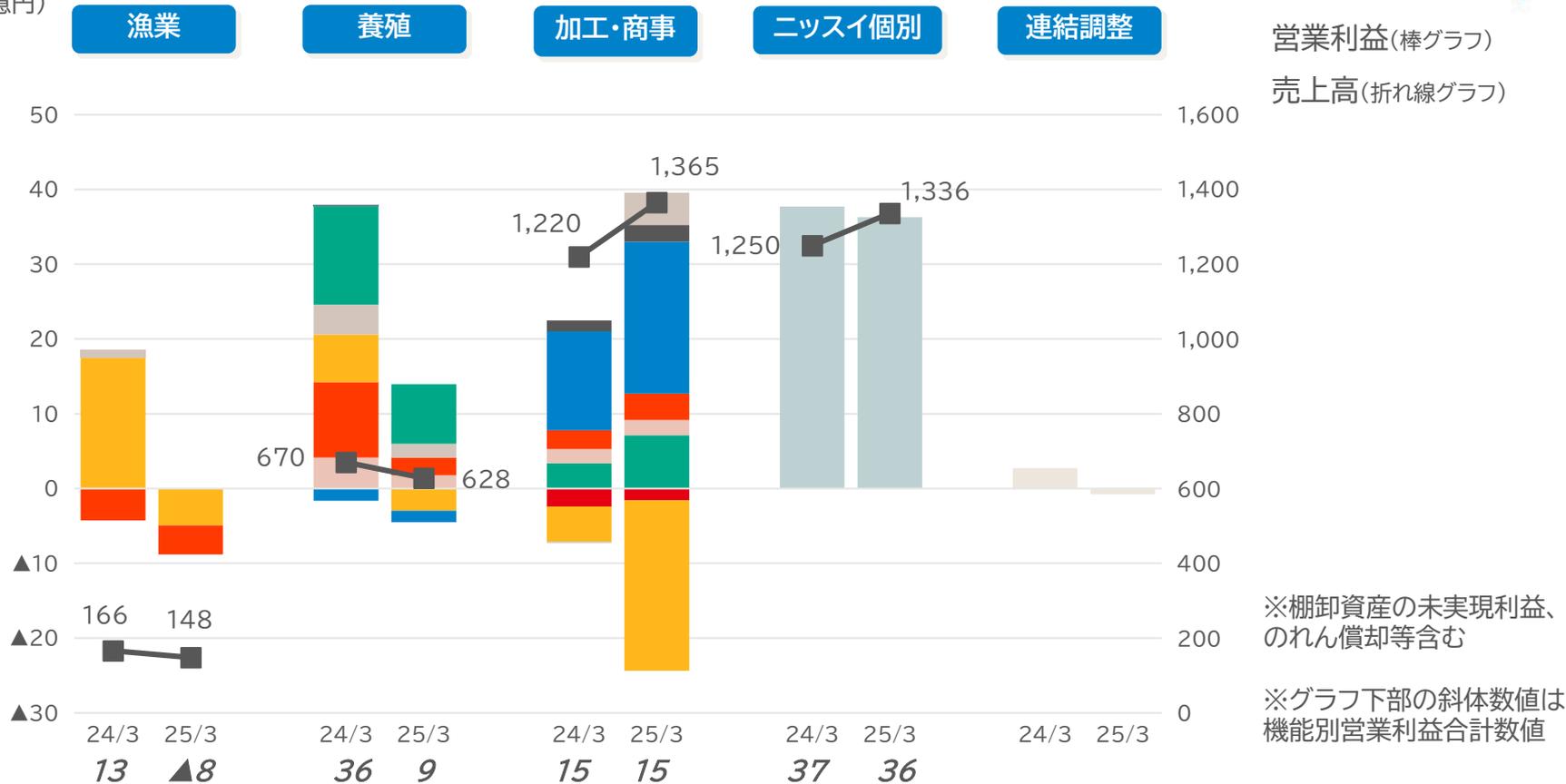
	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率
水産事業	44 (▲48)	▲10 (▲13)	▲5 (1)	20 (7)	3 (2)		52 (▲50)	▲0 (▲3)	51 (▲53)	1.9 (▲2.2)
	92	3	▲6	12	0		102	2	105	4.1
食品事業	124 (▲9)	52 (15)		57 (15)	5 (0)		240 (22)	▲2 (2)	237 (24)	6.7 (0.3)
	134	36		41	5		217	▲5	212	6.4
ファイン 事業	1 (1)				— (0)		1 (1)	0 (1)	1 (2)	1.8 (2.4)
	0				▲0		0	▲1	▲0	▲0.7
物流事業	23 (9)						23 (9)	0 (0)	23 (9)	18.4 (6.6)
	13						13	0	13	11.7
その他 事業	5 (2)				0 (▲0)		5 (1)	1 (0)	7 (2)	5.8 (2.1)
	3				0		3	1	4	3.7
全社経費						▲74 (▲1)	▲74 (▲1)	0 (0)	▲73 (▲0)	
						▲72	▲72	0	▲72	
仮計	199 (▲45)	42 (2)	▲5 (1)	77 (23)	9 (3)	▲74 (▲1)	249 (▲17)			
	245	40	▲6	54	6	▲72	266			
連結調整	4 (8)	▲0 (▲1)	0 (▲4)	▲4 (▲0)	▲0 (▲0)	0 (0)		▲0 (1)		
	▲4	1	4	▲4	0	0		▲2		
連結計	203 (▲36)	42 (1)	▲5 (▲2)	72 (22)	8 (2)	▲73 (▲1)			248 (▲15)	3.7 (▲0.5)
	240	41	▲2	49	6	▲72			263	4.2

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

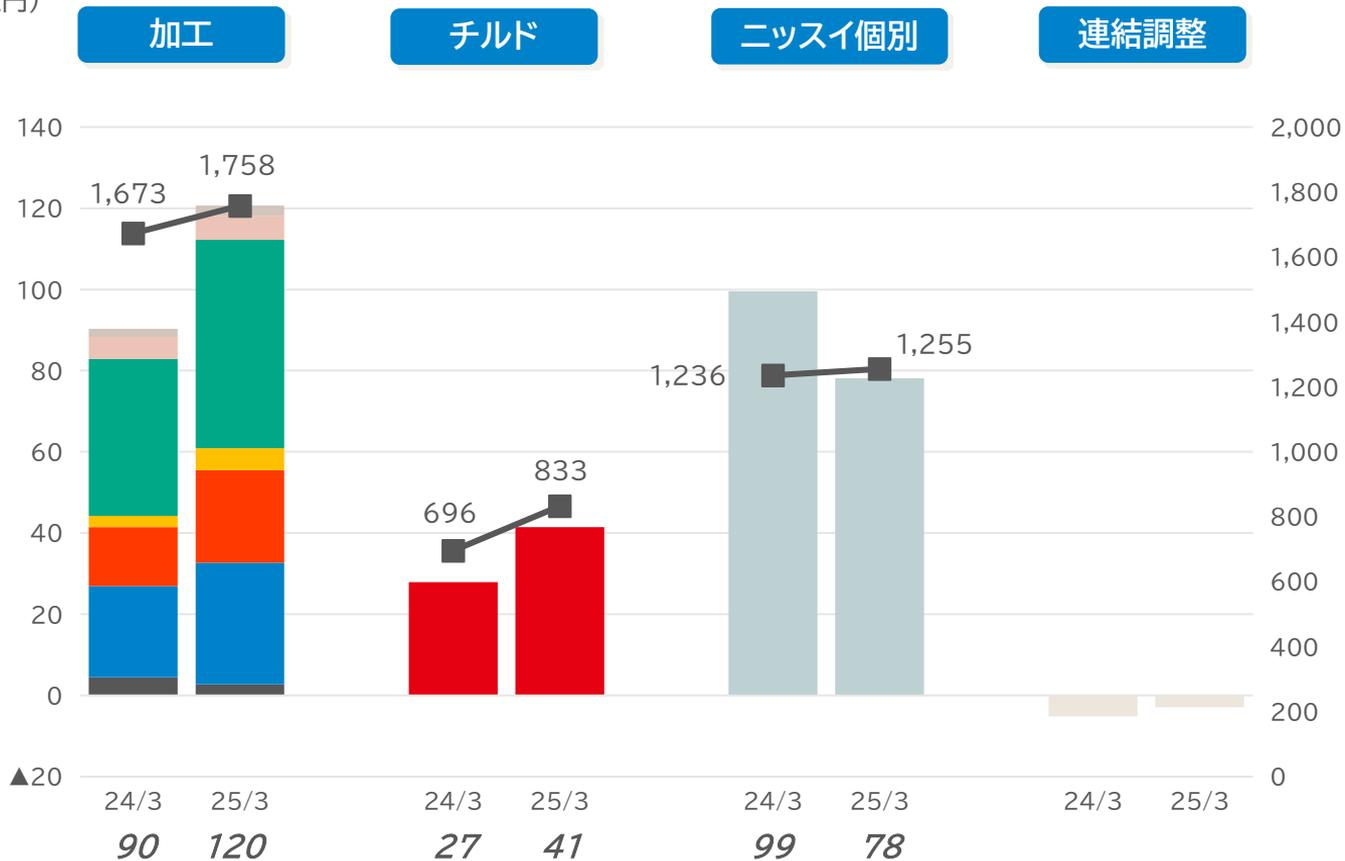
# 2025年3月期第3四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)



# 2025年3月期第3四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)



営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値



まだ見ぬ、食の力を。